

NSAIDs とアセトアミノフェンの鎮痛効果と副作用からみた比較検討に関する研究

1. 研究の対象

2020年7月1日から2020年8月31日に当院整形外科で手術を受けられ、鎮痛剤（カロナール、ロキソプロフェン、エトドラク、セレコックス）を内服された方

2. 研究目的・方法

高齢者の安全な薬物療法ガイドラインでは、NSAIDsは腎機能を低下させるリスクが高いため、長期の使用や常用は避け、使用する場合は低用量とすることが推奨されています。一方でアセトアミノフェンには術後急性期に必要と思われる抗炎症作用はなく、鎮痛効果が乏しいという患者の声も少なくありません。今回、最適な術後鎮痛薬について調べるため、整形外科で使用頻度が特に高いNSAIDs（ロキソプロフェン、エトドラク、セレコックス）とカロナールについて副作用の有無や腎機能に及ぼす影響、鎮痛効果、消化器症状の有無を比較検討します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 1) 患者基本情報：年齢、性別
- 2) 服用薬剤、投与量
- 3) 主観的評価による疼痛の有無
- 4) 腎機能
- 5) 消化器症状の有無

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者：

京都中部総合医療センター 薬剤部 人見志保里

-----以上